

都道府県選抜高校生麻雀大会

ジョイ0508

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

夏の闘いが終わり季節が変わる頃、高校生雀士達の元に一通の手紙が届く。

「都道府県選抜高校生麻雀大会」

各都道府県から選抜された雀士が頂点を争う闘いが今始まる！

目次

長野選抜編

1

長野選抜編

関係者各位

●年○月●日
長野県文化連盟

都道府県選抜高校麻雀大会選考会のお知らせ

拜啓 清秋の候、皆様ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、本連盟の活動にご理解・ご協力頂き誠にありがとうございます。さて、見出しの件ですが、□月△日に都道府県選抜高校麻雀大会が開催されることとなりました。つきましては、下記のとおり選手選考会を行いますので、皆さまご参加いただきませう願います。

記

日時 : ○月△日(金)～□日(日)

場所 : 温泉宿○○○

連絡先 風越女子高等学校麻雀部顧問

久保貴子 000-0000-0000

インターハイが終わり木々が色づく頃、私の元にそんな手紙が届いた。

―麻雀大会：都道府県対抗：お姉ちゃんとまた闘えるかも！

インターハイで闘い無事仲直りすることができたお姉ちゃんは高校を卒業したら帰ってくるようになってる。

もう戻ることがないと思っていた姉妹の絆をもう一度繋ぎ合わせてくれた麻雀、その場となった全国の舞台、それらは私の記憶から消えることは一生ないだろう。

―うん！すぐくワクワクしてきたよ！

翌日

「咲はもちろん参加するわよね？」

部室に入るといきなり部長に声をかけられた。

「へ？」

突然のことだったので情けない声をあげてしまった。

どうやら遅れてくる間に話が進んでいたようだ。

「都道府県選抜よ！昨日手紙来てたでしょ？」

「あつはい！でも、これってチームってどうなるんですか？」

「もー、ちゃんと読みなさいよ…ここに選考会って書いてあるでしょ？」

全国での再戦が楽しみでよく読んでいなかったのが災いした。

「咲ちゃん、相変わらず抜けてるじゃえ」

「大丈夫なんかいのう」

「咲さん、しっかりしてください…」

ーもう、みんなして言わなくてもいいのに…

その頃、龍門淵にて

「衣は参加するぞー！」

「オレはいいよ、面倒くさそうだし」

「私も…」

「僕も遠慮しとこうかな」

乗り気な衣と対照にやる気のない純、智紀、一。そんな4人のもとへ龍門淵家次期当主である龍門淵透華が怒り心頭ながらやって来る。

「何をおっしゃいますの!?? 龍門淵は全員参加に決まっていますわ! 地区大会での雪辱を果たしにいけますわよ!」

「うむ、全国には阿知賀のような怪奇な相手がいるだろう
とても楽しみだ!」

同じく、風越にて

「華菜ちゃん、これどうする?」

「もちろん参加するし! きつと宮永や天江、それに鶴賀の大将も来るだろうから…そこ
でリベンジだし!」

「なら、私も鶴賀のあの人に…勝てそうにないところもあるけど…」

「なら私も」と深堀

「私なんか参加してもいいのでしょうか…? どうしても県大会決勝を思い出してし
まって…」

「…文堂…」

落ち込む文堂にどう声をかけようか迷う面々。

「大丈夫よ、文堂さん。私たちはあれから強くなった。今度こそ風越が最強ってことを証明しましょう！」

「「「キャプテン！」「」」

同じく、鶴賀にて

「ワハハ、ゆみちゃんは参加するのーか？」

「ああ、大学は指定校で決まっているしな。何より面白そうだ。蒲原はどうするんだ？」

「ワハハ、私は大学は決まってるけど一日くらいなら大丈夫だろう」

「智美ちゃん、選考会は三日間だよ？それにこの日は補習があるんじゃない？」

「!？」

「…蒲原は参加できないとして、他のみんなはどうするんだ？」

半ば呆れながら話を進める加治木。

「私は先輩が参加するなら参加するっす！」

「うむ、私も新部長としてやらなくては！」

「わ、私も…」

「ならこの4人で申し込みだな。頼んだぞ睦月」

「は、はい！」

「待ってくれ、ゆみちゃん私がいなかったら会場までどうやって行くんだ？」
そんな蒲原の叫びが加治木に届くことはなかった。

一〇月△日（金）一

「お、おはようございます」

「咲ー、遅いわよ」

「すみません、寝坊しちゃいました、」

「また迷子になったのかと思いましたよ」

一返す言葉もない…

実際のところ道を間違えた訳だし…このことは秘密にしておこう。

「ま、いいわ。これくらいの遅れは想定して予定は立ててあるから。咲が今日が楽しみで寝付けなくて遅れるだろうってね」

と笑う部、元部長。この人は本当に怖い人だ。

「わりや恐ろしい奴じゃのう」

「あら、まこもこれくらいできないといけないわよ？部長なんだから」

「こんなこと部長にしかできないじえ」

「今まこが部長つて言ったばつかじやない…ま、とりあえず出発しましょ」

選考会の会場は電車で1時間ほどの場所にある。確か結構有名な宿だったはず、なんてことを考えている内に最寄り駅へ着いた。

「サキー、ノノカー！久方ぶりだな！」

「衣ちや、さん！」

会場へ着くと県大会決勝や合同合宿で卓を囲んだ皆んなにで迎えられた。よく見ると、知らない人が2人ほどいる。

「平滝高校の南浦です。」

「千曲東の棟居です。」

「清澄の竹井です。よろしくね。」

「ああ、そうか。棟居は団体の1回戦、南浦さんは個人で闘ったんだっけ？棟居さんはやりづらかったな。」

「うちが最後かしら？」

「まだ鶴賀の方たちが来てなくつてよ」

鶴賀は長野で1番北に位置し、今回集まる中では会場から最も遠い。いつもなら暴走

気味のフォルクスワーゲン・タイプIIでやってくるのだがー

「すまない、遅れてしまって。まさか電車での移動がここまで大変だとは思わなかったよ」

「一時間に一本、乗り換え駅でも30分待つなんてまいったつす」

「すみません、私がしつかり予定を立てていけば…」

鶴賀学園御一行の到着だ。つて、あれ？4人？1人足りない。東横さんかと思つたがそうではないようだ。そんな疑問はすぐに解決された。

「蒲原さんは？」

「元部長さんなら補習があつて不参加つす」

ーなるほど、受験生は大変そうだ。清澄の受験生である元部長はIH初出場にして初優勝した清澄を導いた実績が認められて大学や実業団、プロチームから引つ張りだこだったらしい。最終的には教師になる為、東京の大学へ進学することが決まっていた。

「全員揃つたみたいだな」

「「藤田プロ？」」「」」

それぞれが会話に花を咲かせるなか現れたのは、まくりの女王の名で知られる長野出身のプロ雀士藤田靖子であった。

「選考委員の藤田靖子だ。よろしく」

「それでは選考会の日程を伝える。まず今日は各自自由に過ごしてもらって構わない。明日は私と久保も卓に入って打ってもらおう。そして最終日である明後日はここにいる全員でランキング戦をやってもらおう。その結果と2日目の様子を見てメンバーを決めようと思う。何か質問がある者は？」と前で語るカツ井さん。その横には風越のコーチだっけ？久保コーチもいる。

「ちよつといいかしら？」

「竹井か、どうした？」

「今年の1日は清澄が優勝したじゃない？てことは長野からは2チーム参加できるのよね？」

「ああ、その通りだ。他に質問がある者は？いないようだな。それじゃ解散」

「サキー、ノノカー遊ぼう！麻雀しよー！」

「おつふろー、おつふろだじえー！」

「久、ちよつといいですか？」

「この前三尋木プロのレアが…」

ー今度こそは負けないし！

ーまた冷たい透華になつちやうのかな…

「またあの場所で闘うにはここで勝たないと。」

それぞれが想いを抱き夜は明ける——

「えー、おはようございます。藤田プロはまだ寝てるので私が進行をします」

「コーチ大変そうだね」

「昨日も遅くまで付き合わされてたし！」

「池田アア！うるせえぞ！」

場の空気が凍りつく。これが鬼の久保かと皆が慄く中、日常茶飯事なのかピクリともしない池田。

このどうしようもない場をどうにかするため福路が助け舟を出す。

「ーそれで、コーチ。今日はどのように進めるのですか？」

「…失礼しました。えー、先日も説明があつた通り今日はとりあえず自由に打ってもらい私も混ざって皆さんの様子を見させてもらいます。では10分後から開始で」

「ダブルリーチだじえ！」

「ツモ、嶺上開花。1600、3200」

「リーチだし！」

「ツモ！海底撈月！」

「どうだ？様子の方は」

「藤田プロ：もう昼ですよ？」

「ここの布団が気持ちよくてな。仕方ない」

「…こつちに牌譜がまとめてあります。」

「ふむ、お前の所感はどうだ？」

「やはり宮永と天江が抜き出て強いですね。あとは片岡や竹井、福路や加治木もいいですね。あとは鶴賀の東横、

南浦さんもなかなか」

「じゃちよつと打つてくるか、龍門淵の娘も気になるしな」

「龍門淵透華ですか？たしかに強いですが原村とかと比べると…」

「いや、なんでもない」

「この様子だとまだ覚醒してないようだな。条件があるのか、ただ不安定なだけか？」

藤田プロも交え闘いが熱くなりー

「それでは今日はここまで。解散」

ー結局、覚醒はなしか。しかし宮永…全国の魔物を相手にしてさらに成長したか…これなら世界戦も…

選抜合宿3日目

日が沈み月が姿を現す頃、因縁とも呼べる闘いの火蓋が切って落とされた。宮永咲、天江衣、加治木ゆみ、池田華菜、県大会決勝を闘った4人である。

東1局 ドラ 東

親 池田華菜

南家 天江衣

西家 宮永咲

北家 加治木ゆみ

6 巡目

天江 打 東

池田 二二四五①①②③⑦⑦? 東東

（それを鳴けば1向聴、天江の海底もずらせる…でもそれじゃダメなんだろう？）
 天江（風越が鳴かない!?…?…刮目相待。今までとは違うということか）

13巡目

「ツモ！チートイドラドラ、4000オールだし！」

池田 37000

天江 21000

宮永 21000

加治木 21000

「もう、負けないって誓ったんだ！ここで負けるわけにはいかないし！」

「一本場だし！」

東1局1本場 ドラ ②

17巡目 天江「立直！」

宮永（聴牌できない…）

加治木（やはり来るか…）

「ツモ！海底撈月！2100・4100！」

池田 32900

天江 29300

宮永 18900

加治木 18900

東2局 ドラ 八

親 天江

宮永（池田さんも衣さんも強い…私も負けてられない！）

「カン」

③④⑤⑥⑥⑥⑥⑥⑥

「四四四四」

⑥

「ツモ、嶺上開花、1600・3200です！」

池田 31300

天江 26100

宮永 25300

加治木 17300

東3局 ドラ②

親 宮永

加治木

一四五*②②⑥⑦⑧?? 発発 西

(3向聴だがドラ3、ここは和了っておきたい)

2巡目 加治木が発を鳴いて2向聴

4巡目 「チー」

二四五*②②⑧??

〔⑤⑥⑦〕

〔発発発〕

池田の捨てた⑤を鳴く。ドラでもなく手の進まないので普通は考えられない鳴きである。(天江や宮永は感覚派の打ち手だ。特に天江は相手の点数を察して打っている節がある：：ならその感覚をずらしてしまえばいい)

清澄を応援し、全国の強豪をみて生み出した“ただの人間”なりの闘い方であった。

「ロン、発ドラ3で7700」

「何の気配も感じなかったのに!?!」

天江の感覚の隙をついた一閃。

池田 3 1 3 0 0

天江 1 8 4 0 0

宮永 2 5 3 0 0

加治木 2 6 0 0 0

東4局 ドラVI

親 加治木ゆみ

「東4局でトップ、これは華菜ちゃん大勝利だし！」

「ロン、5200」

「うっ、はい…」

「って、そううまくはいかないか…」

池田 2 6 1 0 0

天江 2 3 6 0 0

宮永 2 5 3 0 0

加治木 2 6 0 0 0

天江が池田から5200を和了り点数がほぼ横並びとなった状態で南場へ突入する

そして南4局

南4局 ドラ⑧

親 加治木 26000

南家 池田 23700

西家 天江 28000

北家 宮永 22300

加治木 一五七九②⑥⑦⑨? 西発発 ?

― 良い配牌とは言えないが発が対子なのは有難いな。しかし…

池田 一一二三①④⑧⑧?? 南南南

― ダブ南ドラ2確定! これで決めたいけど…

天江 二三四六⑥⑦⑧⑨⑨? 東南北

― この場を凌げば衣の勝ちだが…

3人が覚えた違和感。それは咲の不自然なまでの大人しきであった。咲の和了りは先程の

東2局のみでそれ以降は大きな動きを見せていない。そして3人はこの感覚に覚えがあった。そう、県大会決勝の安上がりからの大物手を和了り数え役満を決めたときに極めて似ているのだ。

そうとなると目的は一致する。

(（宮永咲に警戒しながら最速で和了る!）)

「ポン」 加治木が発を鳴いて仕掛ける。

対して池田と天江は配牌が良く有効牌の引きも良かったので門前で手を進める。

全員が勝利への手を張った時：

「カン!」

額の上に花が咲く。

「????」?

「必モ、嶺上開花! 4000・8000です!」

池田 19700

天江 24000

宮永 38300

加治木 18000

こうして2度目の闘いは幕を閉じた。

「咲! 池田! それから鶴賀の! 今日はとても楽しかった! また衣と遊んでくれるか?」

「もちろんだ、負けたままではいられないからな」と加治木

「あたしも! この借りはいつか返すし!」

「私も皆さんと打ててとても楽しかったです」

対局が終わり緊張の解けたそれぞれの卓で他愛もないおしゃべりが交わされ和やかな雰囲気がいばらく続いた。

が、それも束の間。

メンバー決定の話し合いの為、別室へ行っていた藤田プロと久保が戻ってくると空気が一変する。

「それでは、代表メンバーを発表する」

「Aチーム、先鋒 片岡優希、次鋒 福路美穂子、中堅 竹井久、副将 宮永咲、大将 天江衣」

「Bチーム、先鋒 龍門淵透華、次鋒 池田華菜、中堅 東横桃子、副将 原村和 大将 加治木ゆみ」

「以上が代表メンバーだ。選ばれなかった者の分まで頑張ってくれ」

「面白そうなチームね」

「咲と同じチームだ！」

「原村和と同じチーム！どちらがより目立つの白黒つけてやりますわ！」

「先輩と同じチーム…頑張るっすよー！」

「全国…またいろんな強い人と闘える！」

長野県、代表メンバー決定！